

令和6年度 第2四半期

---

退職等年金給付組合積立金 運用状況



## 目次

- ・ 令和6年度 第2四半期運用実績（概要） . . . . . P 2
- ・ 令和6年度 第2四半期市場環境（その1） . . . . . P 3
- ・ 令和6年度 第2四半期市場環境（その2） . . . . . P 4
- ・ 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合 . . . . . P 5
- ・ 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り . . . . . P 6
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り . . . . . P 7
- ・ 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 . . . . . P 8
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 . . . . . P 9
- ・ 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額 . . . . . P 10
- ・ 資産運用に関する専門用語の解説 . . . . . P 11

## 令和6年度 第2四半期運用実績（概要）

運用収益額 (第2四半期)	+ 1. 4 2 億円 ※実現収益額
運用利回り (第2四半期)	+ 0. 1 3 % ※実現収益率
運用資産残高 (第2四半期末)	1, 1 0 0 億円 (簿価ベース)

※ 情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要です。

(注1) 収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

## 令和6年度 第2四半期市場環境（その1）

## 【各市場の動き（令和6年7月～令和6年9月）】

- 国内債券：10年国債利回りは低下(債券価格は上昇)しました。期初は日本銀行による金融政策正常化の思惑に伴い、神経質な様子での推移となりました。金融政策決定会合では0.25%への政策金利の切り上げが行われたものの、その結果、円高・株安が進行したことに加えて、米国での景気後退懸念の高まりにより金融緩和観測が拡がったことから利回りは低下(債券価格は上昇)基調を辿りました。
- 国内株式：国内株式は下落しました。期初は米国長期金利の低下と円安を背景に上昇してスタートとなりましたが、米国の対半導体規制や、日本銀行の金融政策決定会合にて追加利上げが決定すると円高が進み株価は下落基調を辿りました。その後は米国景気後退懸念の後退により株価は回復基調となる場面もありましたが、期末には自民党総裁選の結果を受け上値が抑制されました。
- 外国債券：米国10年国債利回りは低下(債券価格は上昇)しました。7月の米国雇用統計をきっかけとした景気後退懸念と物価の鎮静化が意識される中、8月下旬にはFRB(米連邦準備理事会)議長がジャクソン・ホール会議で利下げを示唆したことから、利回りは低下(債券価格は上昇)基調を辿りました。
- ドイツ10年国債利回りは低下(債券価格は上昇)しました。フランス国民議会選挙の結果を受け、利回りは不安定になる場面もありましたが、ECB(欧州中央銀行)が追加利下げを行うとの見通しから利回りは低下(債券価格は上昇)基調を辿りました。
- 外国株式：米国株式(NYダウ)は上昇しました。期初はハイテク株主導で調整する場面が見られたものの、好調な景気シナリオへの期待を背景に株価は上値を模索する展開となりましたが、8月上旬の米国雇用統計の大幅な軟化を受け、景気後退懸念が強まると大幅下落へと転じました。その後はFOMC(連邦公開市場委員会)での大幅利下げにより景気後退懸念が緩和され株価は上昇基調で推移しました。
- 欧州株式(ドイツDAX)は上昇しました。8月には米国の景気後退懸念により株価が大幅下落したものの、ECB(欧州中央銀行)による利下げを材料に株価は上昇基調で推移しました。
- 外国為替：ドル/円はドル安・円高となりました。期初は日米金利差を背景にドル高・円安基調でしたが、日本の政策当局による円売り介入が奏功して、ドル安・円高に転じました。その後は日本銀行が追加利上げを行った一方で米国では景気後退懸念が高まり、ドル安・円高基調が進行しました。
- ユーロ/円はユーロ安・円高となりました。ユーロ圏の景況感悪化懸念による追加利下げ観測を背景にユーロ安・円高が進行しました。

## ○ ベンチマーク収益率

## ○ 参考指標

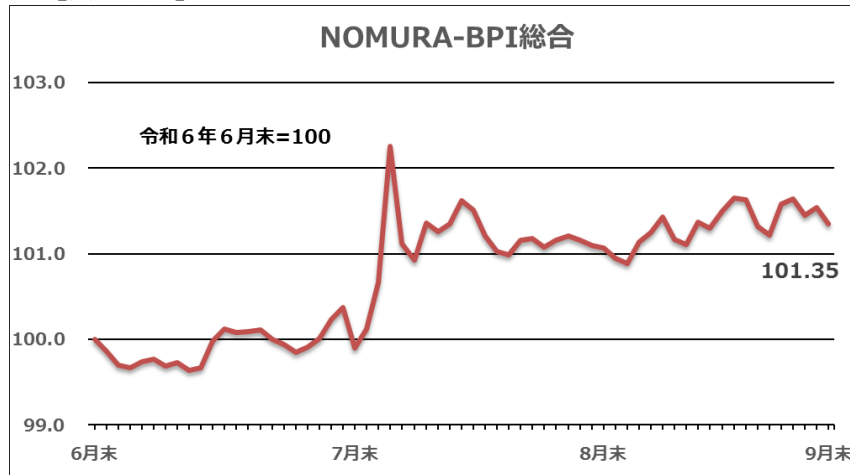
	令和6年6月末～ 令和6年9月末
<国内債券> NOMURA-BPI総合	1.35%
<国内株式> TOPIX(配当込み)	▲4.90%
<外国債券> FTSE世界国債インデックス (除く日本、中国、ヘッジなし・円ベース)	▲5.47%
<外国株式> MSCI ACWI (除く日本、円ベース、配当込み)	▲5.07%

		令和6年6月末	令和6年7月末	令和6年8月末	令和6年9月末
国内債券	新発10年国債利回り (%)	1.057	1.056	0.898	0.861
	TOPIX (ポイント)	2,809.63	2,794.26	2,712.63	2,645.94
国内株式	日経平均株価 (円)	39,583.08	39,101.82	38,647.75	37,919.55
	米国10年国債利回り (%)	4.396	4.030	3.903	3.781
外国債券	ドイツ10年国債利回り (%)	2.500	2.304	2.299	2.123
	NYダウ (ドル)	39,118.86	40,842.79	41,563.08	42,330.15
外国株式	ドイツDAX (ポイント)	18,235.45	18,508.65	18,906.92	19,324.93
	ドル/円 (円)	160.88	149.98	146.17	143.63
外国為替	ユーロ/円 (円)	172.39	162.36	161.49	159.94

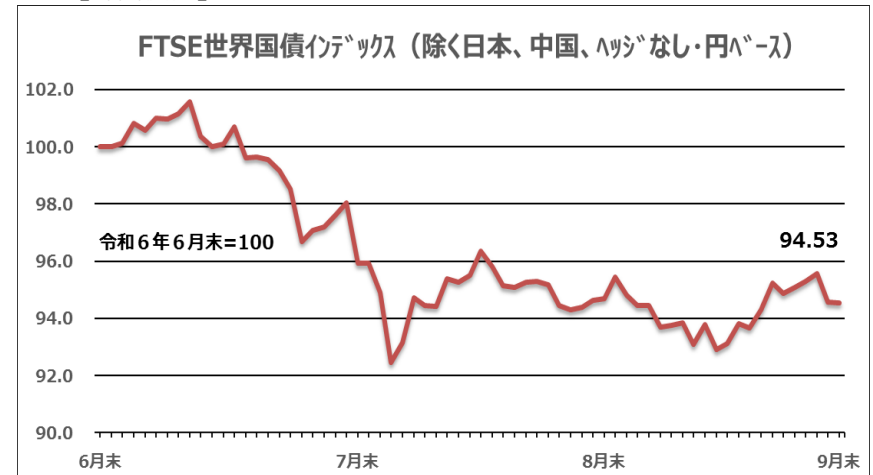
## 令和6年度 第2四半期市場環境(その2)

ベンチマークインデックスの推移 (令和6年度第2四半期) ※令和6年6月末時点の指数を「100」としてグラフ化しています

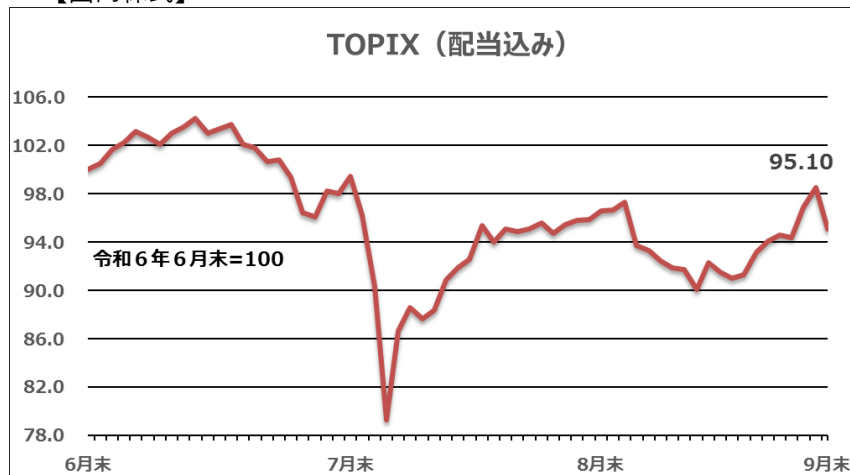
【国内債券】



【外国債券】



【国内株式】



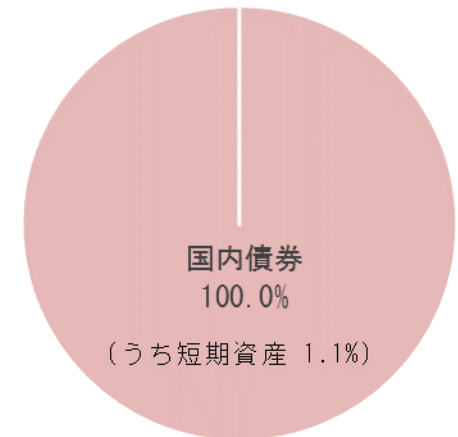
【外国株式】



## 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合

(単位：%)

	令和5年度 年度末	令和6年度				基本 ポートフォリオ
		第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末	
国内債券	100.0	100.0	100.0	—	—	100.0
うち短期資産	(2.3)	(1.9)	(1.1)	—	—	
合計	100.0	100.0	100.0	—	—	100.0

第2四半期末  
運用資産別の構成割合

- (注1) 基本ポートフォリオは、国内債券100%です。  
(注2) 資産構成割合は簿価ベースの数値です。  
(注3) 記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。  
(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。  
(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、マイナスの数値になることがあります。

## 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

- 令和6年度第2四半期の実現収益率は、0.13%となりました。  
 ○退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：%)

	令和6年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.12	0.13	—	—	0.25
国内債券	0.12	0.13	—	—	0.25
うち短期資産	(0.00)	(0.00)			(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和6年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	▲2.69	1.65	—	—	▲1.00

(注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。

(注2) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。

(注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

## (参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

(単位：%)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.10	0.11	0.11	0.12	0.44
国内債券	0.10	0.11	0.11	0.12	0.44
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	0.79	▲3.32	1.14	▲0.27	▲1.70



## 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

(単位：億円)

	令和6年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	1.29	1.42	—	—	2.71
国内債券	1.29	1.42	—	—	2.71
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	—	—	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和6年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	▲26.72	16.57	—	—	▲10.15

- (注1) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。  
(注2) 総合収益額は、実現収益額に仮に時価評価を行った場合の評価損益の増減を加味したものです。  
(注3) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。  
(注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

## (参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

(単位：億円)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.93	1.03	1.12	1.20	4.28
国内債券	0.93	1.03	1.12	1.20	4.28
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	7.01	▲30.92	10.58	▲2.64	▲15.97

## 令和6年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額

(単位：億円)

	令和6年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	1,064	985	▲79	1,100	1,035	▲65	—	—	—	—	—	—
うち短期資産	(20)	(20)	(0)	(12)	(12)	(0)	—	—	—	—	—	—
合計	1,064	985	▲79	1,100	1,035	▲65	—	—	—	—	—	—

(単位：億円)

	令和5年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	938	912	▲25	972	914	▲58	1,011	963	▲48	1,036	983	▲53
うち短期資産	(18)	(18)	(0)	(13)	(13)	(0)	(25)	(25)	(0)	(24)	(24)	(0)
合計	938	912	▲25	972	914	▲58	1,011	963	▲48	1,036	983	▲53

(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 時価及び評価損益は、仮に時価評価を行った場合の参考値です。

(注3) 上記数値(令和6年度)は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。

(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、簿価、時価共にマイナスの数値となることがあります。

## 資産運用に関する専門用語の解説

- 実現収益額  
(計算式)  
実現収益額 = 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減 (当期末未収収益 - 前期末未収収益)
- 実現収益率  
(計算式)  
実現収益率 = 実現収益額 ÷ 簿価平均残高
- 総合収益額  
実現収益額に資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。  
(計算式)  
総合収益額 = 実現収益額 + 評価損益増減 (当期末評価損益 - 前期末評価損益)
- 修正総合収益率  
時価ベースで運用成果を測定する尺度の1つです。総合収益額を、元本平均残高に前期末未収収益と前期末評価損益を加えたもので除した時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。  
(計算式)  
修正総合収益率 = 総合収益額 / (簿価平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益)
- 格付  
債券の信用力や元利金の支払能力の安全性などを総合的に分析してランク付けし、アルファベットなど分かりやすい記号で示されたものです。格付機関が付与します。  
一般に BBB 格までが投資適格とされ、BB 格以下になると信用リスクが高くなるとされています。